

学生の日伯交流を紹介

静岡文化芸術大 池上副学長 都内でフォーラム

日本文化の戦略的発信拠点として外務省が海外3カ所に設置する「ジャパン・ハウスのフォーラム」が25日夜、都内で開かれた。「日本を知る衝撃を、世界へ」と題し、活動報告や今後の展開を模索するパネルディスカッションなどを行った。パネリストで登壇した静岡文化芸術大の池上重弘副学長は、同



ブラジル・サンパウロ市のジャパン・ハウスでのインターンシップの様子を紹介する池上重弘副学長(右)＝25日、都内

の若者の視点による展示の改善や、現地の交流など。深夜まで現

地スタッフの家で親睦を深めた事例などを紹介し、池上副学長は「深いつながりができた」と成果を強調した。地場産業の金属加工文化の展示をイギリス・ロンドンで行った新潟県三条の事例や、伊勢神宮の魅力発信を目指す三重県伊勢市の取り組みなども紹介された。ジャパン・ハウスの総合プロデューサー原研哉さんは「これからは日本の地域にある財産を目掛けて人が来るようになる」と話し、地域の魅力の再発見と伝え方の重要性を説いた。